

むかわ
鷓川総合水系環境整備事業

新規事業採択時評価 説明資料

鷓川流域と河川の概要

- 鷓川は、その源を北海道勇払郡占冠村の狩振岳(標高1,323m)に発し、占冠村においてパンケシュル川、双珠別川等を合わせ、赤岩青巖峽を流下し、むかわ町穂別において穂別川を合わせ、むかわ町市街地を経て太平洋に注ぐ、幹川流路延長135km、流域面積1,270km²の一級河川である。
- 水質は、BOD75%値が環境基準を満足し、良好な水質を維持している。



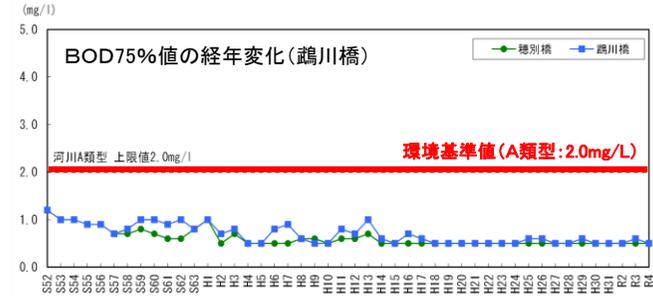
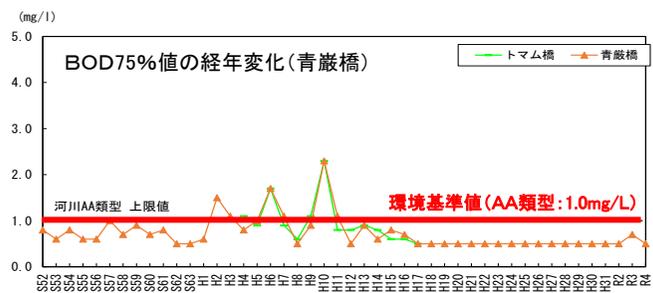
- 水源 : 狩振岳 (勇払郡占冠村)
- 流域面積(集水面積) : 1,270km²
- 幹川流路延長 : 135km
- 流域内市町村 : 1町1村
- 流域内人口 : 約0.9万人

鷓川下流部 (河口～川西頭首工付近)	鷓川中流部 (川西頭首工付近～占冠村ニニウ地点付近)	鷓川上流部 (占冠村ニニウ地点付近～大臣管理区間まで)	鷓川上流部～源流部 (大臣管理区間より上流)
<p>出典:国土交通省 日本の川 北海道の一級河川HPより</p> <p>鷓川下流 (河口付近)</p> <p>河床勾配が1/1,000～1/1,200程度であり、シシヤモの産卵床が分布している。</p>	<p>出典:国土交通省 日本の川 北海道の一級河川HPより</p> <p>鷓川中流 (KP9付近)</p> <p>福山溪谷等の溪谷の間を流下し、河床勾配は1/100～1/1,000程度である。支川の穂別川には穂別ダムを有する。</p>	<p>出典:国土交通省 日本の川 北海道の一級河川HPより</p> <p>鷓川上流 (KP35付近)</p> <p>1/150以上の河床勾配であり、山地を流れ、樹林が水際まで分布する。</p>	<p>赤岩青巖峽</p> <p>1/150以上の河床勾配であり、針葉樹と広葉樹の針広混合林や赤岩青巖峽等の自然景観を有している。</p>



水質の状況

河口から占冠村の双珠別川合流点まではA類型に指定されており、環境基準を満足している。
 双珠別川合流点から上流はAA類型に指定されており、過去に環境基準を上回る年もあったが、近年は、概ね環境基準を満たしている。



鷓川の自然環境

【動植物の生息・生育・繁殖環境】

- 鷓川は、シシャモ、サケ等が遡上し、特に下流部では、北海道の太平洋沿岸のみに分布しているシシャモの貴重な産卵床がみられる。また、河口では、干潟の再生に取り組んだ結果、シギ・チドリ類（渡り鳥）が多く観察され、現在は、地域住民と連携して干潟の保全に取り組んでいる。
- 中流部では、河岸の連続した河畔林が発達し、国の天然記念物に指定されているオジロワシ等が生息するほか、フクドジョウやエゾウグイ等の流れの緩い場所を好む魚類が多く生息・繁殖している。
- 上流部では、瀬・淵にサクラマス（ヤマメ）がみられ、自然裸地にイカルチドリ等が生息・繁殖している。

【景観】

- 下流部のむかわ町市街部では、河川空間及び周辺に田園風景が広がり、市街地周辺の河川敷にはたんぽぽ公園が整備されるなど、親水性に富んだ水際空間が構成されている。河口部は、広がりのある河川空間と太平洋の海岸線および干潟等で構成されている。
- 上流部は、あかいわ せいがんきょう赤岩青巖峡やふく やま けい こく福山溪谷などの景勝地となっており、流下するにしたがって、田園風景を構成する要素となっている。

【景観】



赤岩青巖峡



たんぽぽ公園



福山溪谷



シギ・チドリ類



【動植物の生息・生育・繁殖環境】



中流部の河畔林



サクラマス(ヤマメ)



イカルチドリ



河口干潟

— 河川用地界
令和元年撮影



シシャモ

地域開発の状況

- 鷓川地区においては、平成9年4月に温浴施設、物産館、レストラン、運動施設、集会スペース等を併設した「四季の館」が整備され、平成15年8月に道の駅に指定されている。
- また、昭和53年に建設された鷓川ししゃも孵化場が、令和4年10月に鷓川近くに移転新築している。水の流れを自然に近い状態に整えて資源を確保し、安定した産卵環境を向上させることで、ここ数年記録の不漁が続く「鷓川ししゃも」の資源回復を図っている。
- 穂別地区においては、昭和50年に発見された首長竜化石を地元に残し、保存、展示することを目的に、穂別博物館が昭和57年に開館した。2003年から14年にかけて国内唯一の恐竜全身骨格であるカムイサウルス・ジャポニクス（通称 むかわ竜）が発掘された。これらの貴重な化石を展示するため、平成15年に「むかわ町恐竜ワールド構想」、平成30年3月に博物館周辺エリア再整備基本計画が策定され、現在は、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震を契機とする「むかわ町復興拠点施設等整備事業」として博物館の建て替えおよび周辺整備が実施されている。
- また、河川に隣接するリバーサイドパークは、地域住民のスポーツや、レクリエーション活動等の場として利用され、「ArimoriCup マラソン大会」や「穂別流送まつり」の会場として活用されている。



道の駅四季の館



鷓川ししゃも孵化場(令和4年10月移転)



出典：写真 むかわ町ホームページより

カムイサウルス・ジャポニクス
(通称 むかわ竜)全身復元模型



たんぽぽ公園



ArimoriCup マラソン大会



むかわ町穂別流送まつり

北海道むかわ町が目指すまちづくり

- 北海道むかわ町では、「人と自然が輝く清流と健康のまち」をまちづくりの普遍の理念として掲げ(①)、鷓川の河川環境の整備等を通じて、自然緑地や都市景観の形成を目指す(②)こととしている。
- また、市町村合併から年数が経過しており、町内の周遊性を高め、町全体で賑わいを創出するために、鷓川地区と穂別地区のヒト・モノ・コト・トキをつなぐ充実・強化に向けた取組を進める旨(③)が示されている。

①第2次むかわ町まちづくり計画(令和3年3月策定 むかわ町)

鷓川が、むかわ町の町名ともなっており、むかわ町を南北に貫流していることから、町と河川との関わりが強く、第2次むかわ町まちづくり計画においては、河川に関する内容を含んだテーマ『人と自然が輝く清流と健康のまち』を、まちづくりの普遍の理念として設定している。

まちづくりの普遍の理念:

『人と自然が輝く清流と健康のまち』

②むかわ町都市計画マスタープラン(令和4年3月策定 むかわ町)

「第2次むかわ町まちづくり計画」を踏まえて策定された、「むかわ町都市計画マスタープラン」では、鷓川の河川環境の整備等を通じて、自然緑地や都市景観の形成を目指す旨が示されている。

『2.3 公園・緑地(1)基本方針』の

『目標① 憩いや潤いのある自然と調和した都市形成を目指します。』より)

●骨格を形成する自然緑地の保全と活用

町の骨格軸となる一級河川の鷓川や穂別川は、生態系へ配慮した河川環境の保全を図るとともに、親水化を促進し広域的な利用を視野に入れた鷓川運動公園及びたんぼぼ河川緑地の環境整備を図ります。

『2.6 都市景観(1)基本方針』の

『目標② 都市の緑化を推進します。』より)

●身近な水辺空間の形成

市街地の東部を流れる鷓川は、市街地に自然を導く水と緑の軸であることから、水質及び生態系の保全・回復などに配慮しつつ、身近に水と親しめる水辺空間の形成を図ります。

③むかわ町まちなか再生基本計画(令和4年3月策定 むかわ町)

『6.基本計画における主な取組』の『V 両地区をつなぐ取組の充実・強化』の中で、町内の周遊性を高め、町全体で賑わいを創出するために、両地区(鷓川地区・穂別地区)をのヒト・モノ・コト・トキをつなぐ充実・強化に向けた取組を進める旨が示されている。

■両地区をつなぐ

ヒト・モノ・コト・トキの充実・強化

市町村合併から年数が経過し、より一層、一体的な取組を推進し、相乗的な効果を発揮するため、両地区のヒト・モノ・コト・トキをつなぐ充実・強化に向けた取組を進めます。

【取組内容】 ※一部省略

- 「むかわ町かわまちづくり計画」の策定
(まちなかをつなぐ一級河川鷓川を活用したステージ展開)



むかわ
① 鷓川地区の課題

- 緩やかな流れのある流況を活かしたSUPやカヌーなどの水上アクティビティや地域の児童等による環境学習、水遊び等の利用ニーズが高い中で、水際に草木等が繁茂して見通しが悪く、段差があるため、安全に水辺に近づくことが出来ない状態になっている。
- また、周辺施設である道の駅「むかわ四季の館」やむかわ町市街地から河川空間に訪れるための動線が不足している。



ほべつ
② 穂別地区の課題

- 隣接する公園「リバーサイドパーク」にイベントやスポーツで来訪する利用者が多いものの、河川空間にアプローチするための動線が狭くなっており、一体的な利用が図られていない。
- また、速い流れのある流況を活かしたラフティングなどの水上アクティビティの利用ニーズが高い中で、水際に草木等が繁茂して見通しが悪く、安全に水辺に近づくことができない状態になっている。



③ 鷓川～穂別地区の課題

- 鷓川の良好な景観を眺めながら、鷓川地区と穂別地区とを繋ぐことができるサイクリングルートの設定が検討されている中で、未舗装の堤防天端が存在しているため、サイクリストの移動が困難な箇所が存在している。



事業概要

- 北海道むかわ町が目指すまちづくりと一体となって、新たなサイクリングコースの設定に資する基盤整備や水上アクティビティをはじめとするレクリエーション等に活用できる水辺拠点を創出する。

総事業費：約3.6億円(国)

※むかわ町の事業費約0.6億円を合計して約4.2億円

事業期間：令和7年度～16年度

整備内容

1. 河川管理用通路(国)

水辺空間まで安全にアクセスできる河川管理用通路を整備します。

2. 高水敷整正(国)

地元住民や観光客が水辺空間を訪れることができるよう、高水敷(スペース)を整備します。

3. 河岸整備(国)

SUP・カヌー・水遊び等の水辺アクティビティの利便性を向上させるため、緩傾斜整備を行います。

4. 堤防天端舗装整備(国)

既存サイクリングロードとの連携を図ります。

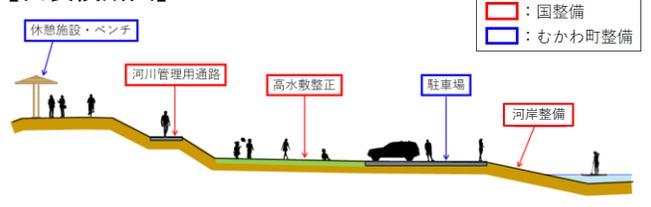
5. 駐車場整備(むかわ町)

周辺からのアクセスを容易にするため、駐車場を整備します。

6. 休憩施設・ベンチ・看板(むかわ町)

良好な河川利用のための施設(ベンチ、看板等)を整備します。

【代表横断図】



穂別橋上流周辺



鶺川大橋下流周辺



<穂別地区>

穂別橋上流周辺
リバーサイドパーク上流周辺

<鶺川地区>

鶺川大橋下流周辺
たんぽぽ公園上流周辺



サイクリングロード



総合水系環境整備事業の目的

総合水系環境整備事業は、健全な水循環系の確保に資する水質改善を行う「水環境」、生物の多様な生息・生育・繁殖環境の確保に資する湿地再生等を行う「自然再生」、地域関係の再構築に資する利活用空間の確保等を行う「水辺整備」の3つの環境要素を踏まえ、水系全体の河川環境について十分把握した上で、水系一貫して環境整備を行うことを目的とした事業

鷓川水系における環境整備の方針

鷓川の自然豊かな環境を保全・継承するとともに、アイヌ文化の保全・継承等、地域の個性と活力、歴史や文化が実感できる川づくり

鷓川水系における環境整備の現状と取組

- ・地域の賑わいづくりに資する水辺空間の整備に向けて、引き続き、地域のニーズの把握に努める。
- ・令和7年度より、むかわ町が申請した「むかわ町かわまちづくり計画」に位置づけられた治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を実施する。

地域の協力体制

- 平成8年に結成された「ネイチャー研究会inむかわ」では、タンチョウの保護活動、干潟の保全活動、シギ・チドリなどの鳥や花の観察会、環境学習のほか、オオハンゴンソウの防除活動など、鷗川に関連したさまざまな活動を実施しており、川を通じた地域活性化に取り組んでいる。
- 平成27年5月に、むかわ町、日高町、平取町の3町からなる「鷗川・沙流川WAKUWAKU協議会」が設立され、鷗川・沙流川流域の広域観光圏の形成を目指し、積極的な情報発信を行うとともに、3町の観光施設を回るスタンプラリーを開催するなど、地域づくりにおいて舵取りの役割を果たしている。
- 「日高サイクリング協会」は、鷗川地区と穂別地区を結ぶ約40キロのコースのサイクリング走行会を実施しており、鷗川地区と穂別地区を結ぶアクティビティとして鷗川沿いでのサイクリングコースの整備が期待されている。
- 今回の環境整備に向けては、むかわ町まちづくり委員会の中に、かわまちづくり鷗川部会、穂別部会が組織され、かわまちづくりにおける整備内容や利活用、維持管理計画を議論しており、これらの地域の団体との協力体制が構築されている。



干潟での環境学習
(ネイチャー研究会inむかわ)



オオハンゴンソウの防除作業
(ネイチャー研究会inむかわ)



WAKUWAKUスタンプラリー
(WAKUWAKU協議会)



堤防道路を活用したサイクリング走行会
(日高サイクリング協会)

むかわかわまちづくり計画(令和6年8月8日登録)

<かわまちづくりの方針>

- むかわ町まちづくり計画で取り組む既設の観光施設等の再整備化とかわまちづくりによる河川空間の整備を一体的に進め、恐竜化石などの独自性のある地域資源や札幌圏・新千歳空港・苫小牧等から約1時間前後といった立地条件のポテンシャルを活かし、町外からの観光客の誘導も図りながら賑わいある良好な河川空間を創出し、活気のあるまちづくりを推進する。

<むかわ町まちづくり委員会の発足と取組>

- むかわ町では、平成22年にむかわ町まちづくり委員会を設置し、「むかわ町まちづくり計画」策定などまちづくりに関する取組を実施している。さらに、まちづくり委員会に河川に関わる地域の団体や河川管理者が参加し、令和4年9月1日にかわまちづくり鷗川部会、かわまちづくり穂別部会が組織され、かわまちづくりにおける整備内容や利活用、維持管理計画を議論している。



まちづくり委員会の開催状況

事業の緊急度

- 事業の周辺地域は、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で甚大な被害を受け、被災者の転出等の影響により人口減少や過疎化が一層加速している。
- 北海道むかわ町が策定した「第2次むかわ町まちづくり計画」(令和3年3月策定)においては、まちなかの施設整備等にあわせ、河川敷地にあるたんぼぼ公園、リバーサイドパーク等の利用向上に資する環境整備等により、サイクリングやSUP・カヌーなどのアクティビティの民間事業者等の誘致を図ることとした。
- 北海道むかわ町の復興まちづくりを加速させ、町外から人を呼び込み産業振興や地域活性化に貢献するために早急な事業着手が求められており、令和7年度の事業着手が必須である。

関連事業との整合

- 北海道むかわ町では、「むかわ町まちなか再生基本計画」(令和4年3月策定)に基づく「むかわ町復興拠点施設等整備事業Ⅰ」として、穂別地区で鶴川から約1kmの位置に復興拠点施設として穂別博物館(令和8年度3月完成予定)や温浴カフェ(令和7年3月完成予定)を整備している。



穂別地区復興拠点施設のイメージ



資料:「むかわ町まちなか再生基本計画」(令和4年3月策定)P8

評価項目：費用対効果分析

費用対効果分析

- 便益は、「仮想的評価市場法」(CVM)によって算定。
- 便益の集計範囲は、鶴川流域の認知度の分析結果を基に、生活圏のつながり等を考慮して整備箇所から30km圏内のむかわ町、厚真町の全域及び、日高町、平取町、安平町、苫小牧市の一部とした。
- 有効回答数は257票、1世帯あたりの支払意思額(WTP)の平均値は、442円/月/世帯となった。
- 費用便益分析を行った結果、便益と残存価値を合計した総便益(B)は約52.6億円、建設費と維持管理費を合計した総費用(C)は約3.6億円であり、費用便益比(B/C)は14.7となる。併せて、感度分析も実施した結果、B/Cは13.2～16.2となる。

■ アンケート調査概要

実施形式	郵送調査	
標本データ	住民基本台帳から抽出	
調査対象範囲	むかわ町、厚真町、日高町、平取町、安平町、苫小牧市の6市町	
負担金に関する設問	支払形態	負担金
	支払方法	月払い・年払いの併記
	提示額の設定	50・100・200・500・1,000・1,500・2,000円/月の7段階 ※「支払わない」の選択肢も設定
アンケート送付数	1,500票	
回収数(回収率)	421票(28.1%)	
有効回答数(回答率)	257票(61.0%)	
WTP(支払意思額)	442円/月/世帯	

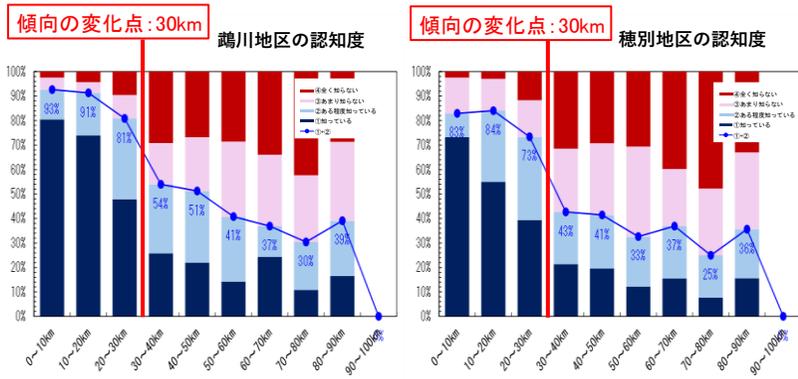
便益集計範囲

整備箇所から30km圏内のむかわ町、厚真町の全域及び日高町、平取町、安平町、苫小牧市の一部(計 68,364世帯)



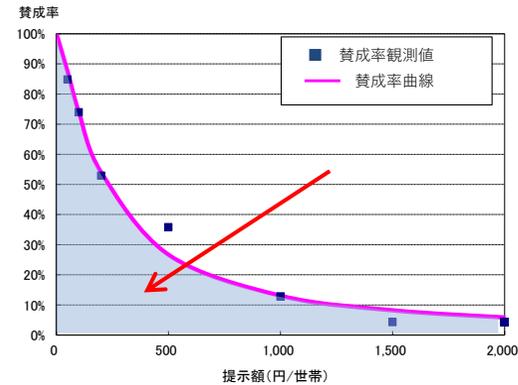
便益算定のための便益集計範囲(30km圏内)

■ 便益集計範囲の設定根拠



鶴川地区、穂別地区の認知度 (整備箇所からの距離帯別集計結果)

■ 支払意思額



■ 事業の投資効果

(単位:百万円)

項目	全体事業
便益額 (B)	5,263
便益	5,262
残存価値	1
費用 (C)	359
建設費	331
維持管理費	28
費用便益比(B/C)	14.7

・社会的割引率(4%)及び治水経済デフレーターにより現在価値化した値
 ・消費税相当分の除外が必要な項目は税相当分を除外
 ・B/Cは小数第二位、それ以外は小数第一位で四捨五入している
 ・合計欄は表示桁数の関係で単純計算と一致しない場合がある

■ 感度分析

	基本	事業費		工期		資産	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
便益額(B) (百万円)	5,263	5,264	5,263	5,061	5,474	5,790	4,737
費用(C) (百万円)	359	392	326	354	364	359	359
費用便益比 (B/C)	14.7	13.4	16.2	14.3	15.0	16.1	13.2

■ 《参考値》 社会的割引率による費用便益比

費用便益比 (B/C)	社会的割引率1%	社会的割引率2%
	29.3	23.0